

家庭の空気

本日は文化の日です。この祝日は、私たちが大切にしてきた生き方や考え方に対する日でもあります。

文化と聞くと、芸術や伝統行事を思い浮かべがちですが、実はもっと身近なところにも存在しています。

それは、家庭の中で自然に受け継がれている振る舞いや言葉、ものの見方です。

例えば、朝の「おはよう」、外出先での礼儀、困っている人の気遣い。誰かに教科書で教えられたわけではなく、日々の暮らしの中で、親の姿を通して子どもが学んでいくものです。特別な決まりがなくとも、家族の中で当たり前のように続いていることが、その家ならではの雰囲気をつくっています。

文化の日は、そんな家庭の積み重ねを振り返るよい機会です。続けてきた中には誇れるものもあれば、少し立ち止まって見直したいものもあるでしょう。どんな言葉をかけ、どんな態度で向き合うのか。その一つ一つが、これから家庭の空気をつくっています。

今日の言霊　家庭の文化は、日々の関わりから生まれます。

子どもの心の在り方は、特別な指導だけでは形づくられるものではありません。むしろ、日常の中で交わされる何気ない一言や、周囲の大人の振る舞いが、大きな影響を与えています。

幼い頃に繰り返し経験した関わりは、成長してからも判断や行動の土台となります。相手を尊重する姿勢、思いやりをもって接する態度は、説明されるよりも、見て感じて身につくものです。

教育の現場でも同様に、私たち教職員がどのように子どもと向き合っているかが、静かに伝わっています。忙しい中での声のかけ方、失敗した場面での表情や対応、仲間と接する姿。そうした日常の積み重ねが、子どもたちの人との関係の結び方や、自分自身の価値の感じ方に影響を及ぼします。

意図せず示している態度こそが、最も強いメッセージになることもあります。だからこそ、日々の関わりを丁寧に重ねていくことが重要です。一つ一つは小さくても、その積み重ねが、子どもの心を支える確かな土台となっていきます。

【今回の学び】⇒今日の自分の姿が、明日の空気を作っていく！

